

令和3年度 学校経営環境分析書

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	 (支援的要因)	 (強み)	内部環境	 支援的要因と強みを生かした活動・取組は
	【保護者・地域】 ①保護者、地域ともに学校 校教育に対して協力的である。 ②中学生が参加できる地域 の取組がある。 ③中学校区の各学校が、情 報の共有を図り、取組に系 統性がある。  【市教委】 ④「呉の学校教育」に基づ き、学校に対する指導・支 援がある。 ⑤ITC環境の整備を整え ている。	【保護者・地域】 ①保護者や地域住民が学校に対して、積極的に情報 提供を行うなど協力的である。 【学校】 ②教職員が情報を共有し、学校組織として情報を協 働的に取り組んでいる。 ③指導を徹底するために、共通の取組事項や方策が明 確に示されている。 ④3年間を通して系統的に総合的な学習の時間に取り 組んでいる。 ⑤二川教育プランにより、児童生徒の課題を明確に し、系統的・継続的な指導を行っている。 【生徒】 ⑥前向きに学校生活を送ろうとする生徒が多い。 ⑦ルールを守り、係等責任を持って行っている生徒 が多い。		○「主体的・対話的で深い学 び」の実現を目指した「教え て考えさせる授業」の推進 (S②③⑤) ○生徒会活動を中心に生徒 の自治能力を高める活動の 推進・生徒主体の学校づくり の推進 (S⑥⑦) ○目指す児童生徒像の具現 化及び夢の実現に向けてチ ャレンジする生徒の育成(小 中一貫教育の充実)(O③ ④⑤ S⑤⑥)
外部環境	 (阻害的要因)	 (弱み)	内部環境	 阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は
	【保護者・地域】 ①家庭の教育力が低下傾向 にある。 (携帯電話使用、ゲーム依 存に係るルールの確立・遵 守、基本的な生活習慣、学習 習慣の確立、規範意識の涵 養) ②地理的に校区3校間の移 動が難しく、児童生徒の交 流が持ちにくい。  【生徒】 ③内面的発達の個人差が顕 著である。自己肯定感の二 極化が見られ、意欲・向上 心に課題がある。 ④生徒間の人間関係が固定 化、グループ化している。	【学校】 ①「主体的な学び」に向け、授業改善に対する教職員の 意識は向上してきている。しかし、生徒の思考を促 す発問や切り返し(比較・分類・関連付け・総合等)な ど、深まりのある話し合いを促す指導は不十分であ る。メタ認知を高める学習指導が十分であるとはい えない。  【生徒】 ②自分で計画を立てて学習する習慣が十分確立でき ていない。自力解決する力が弱く、思考力、表現力に 課題がある。 ③家庭学習が定着していない。(課題未提出者の固定 化等) ④生活規律が守れない生徒がいる。 ⑤相手意識が低く、言葉づかいなど他者への言動に配 慮の欠ける生徒、他者との関係をうまく築くことが できない生徒がいる。	○家庭・地域と連携した生活 規律を確立する取組 (T①② W②③④) ○基礎・基本の徹底及び思考 力・表現力の向上を図る取組 (家庭学習の取組、授業改善 の取組、自己の校内研修) (T① W①②③) ○自己肯定感・自己有用感を 高める取組(生徒主体の授業 づくり、生徒主体の学校づく り)(T①②③④ W①②③④ ⑤) ○自己指導能力を育成する 取組(振り返り・教育相談の充 実)(T①③ W②③④⑤) ○「特別な教科 道徳」の授 業の充実(T③ W②⑤) ○ソーシャルスキルトレーニ ングなどの手立て(T③W⑤)	

2 重点課題

- (1) 中学校区で育成すべき資質・能力の育成に向け、「主体的な学び」を実現する授業改善を推進する。
  - ・生徒の興味・関心を促す課題を設定し、あるいは設定させ、その課題解決に向けて、生徒が自ら探究活動を進める工夫をする。小中一貫で取り組んでいる「二川授業スタイル」をベースに、「教えて考えさせる授業」を推進し、さらに「考える授業」づくりを進める。
- (2) 自己指導能力及び自己肯定感・自己有用感を向上させる。
  - ・自己を認識し、自分の人生を選択し、表現する力を育て、夢の実現に向けてチャレンジする生徒を育成する。
  - ・生徒会を中心とした生徒主体の学校づくりの推進を継続する。
  - ・生徒指導の三機能(自己存在感・自己決定・共感的人間関係)を基盤に、積極的な生徒指導を組織的に行う。